

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業改良普及センター

「稲作情報（第4号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第4号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。この情報はホームページ（以下URL）にも随時公開しています
<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00323270/index.html>

杵島農業改良普及センター

検索

1. 気象概況

アメダス観測値（白石）

月	半月	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R3 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R3 (hr)	平年比 (%)
5月	1	17.4	15.6	-1.8	23.5	21.1	-2.4	11.8	9.2	-2.6	31.5	28.0	89	29.6	33.8	114
	2	18.1	19.3	1.2	24.2	24.8	0.6	12.6	13.4	0.8	33.3	2.0	6	29.7	39.5	133
	3	18.5	20.9	2.4	24.7	24.4	-0.3	13.0	17.9	4.9	33.4	78.5	235	30.0	6.2	21
	4	18.9	21.7	2.8	25.1	25.3	0.2	13.4	18.7	5.3	28.9	118.5	410	30.2	7.2	24
	5	19.6	19.4	-0.2	25.9	24.9	-1.0	14.1	14.5	0.4	23.1	7.0	30	31.0	21.7	70
	6	20.5			26.8			15.1			26.8			37.6		

○5月5半月の平均気温は、平年に比べて0.2°Cほど低く推移した。また、曇天が続き平年に比べて寡照傾向となった。

◀福岡管区気象台の1か月天気予報（5月27日発表）▶（予報期間 5月29日から6月28日まで）

暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。向こう1か月の降水量と日照時間は、ほぼ平年並みの見込みです。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：5月30日）

項目 品種	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概要
コシヒカリ	本年値	59.9	680	10.7	44.5	・草丈は平年に比べ高く、茎数は多い。 ・主稈出葉数は平年より0.1葉少ない。葉色は平年より濃い。 ・幼穂長 未確認~0.1mm程度 節間長 5mm程度
	平年値	51.4	625	10.8	41.8	
	平年比(差)	107	109	-0.1	+2.7	

※ 平年値は、H21~R2年度の平均値、耕種概要は稲作情報N01参照

（管内の生育状況）

○現在、生育ステージは、穂首分化期~幼穂形成始期直前を迎えている。

○葉色は、好天で低下している（圃場の葉色のムラが散見される）。

5月5半月以降の天気は高温多日照条件で推移し、茎数は平年より多いことから葉色低下が大きくなっている圃場を散見する。葉色の低下は好ましいが、過剰分けつ傾向で茎の細化が懸念される。

○葉色が濃く旺盛な生育圃場において、葉もち病斑（停止型）を確認した。

3. 今後の管理

(1) 水管理

- 「コシヒカリ」は、まもなく幼穂形成始期となる。
幼穂形成期から出穂期にかけては要水量が増加する時期であるが、湛水を長く行くと根を傷める場合もあるので、引き続き間断灌水を行う。
- 現在、土壌が柔らかい圃場では、土壌をある程度固めることが最優先である。土壌の硬さは「歩いて足跡が付くが抵抗なく歩ける程度」が理想である。ただし、幼穂形成期以降に、手のひらが縦にはいるようなヒビ（土壌表面が白乾状態になる）は、強い断根を伴い稲にとってダメージが大きくなるので行わない。そのため遅くとも中干し作業は6月3日までに完了する。
- 降雨が連続する場合は、排水口は落水状態で管理する。

(2) 肥培管理

- 情報田の生育状況から判断すると、出穂前28日頃と推定される。
- 穂肥施用の目安は、幼穂長15mmの時（出穂前18日頃）に群落葉色が3.3~3.7程度（36.0~39.5）まで低下したら、ゴールド有機50を10kg/10a施用する。
必ず穂肥診断を行い、幼穂長と葉色の状況を確認し下記の葉色診断基準を参考にする。
ただし、いもちの病斑が上位3葉以内にある圃場では、穂肥で窒素濃度が高まり降雨が続くと、「いもち病」の好適発生条件となるため、穂肥施用量は減ずる。

表1 コシヒカリの出穂前日数と幼穂長の関係

出穂前日数	26	23	20	18	15	12
幼穂形成始期からの日数	0日	0~3日	3~6日	6~8日	8~11日	11~14日
幼穂長(mm)	1mm	1~3mm	8~12mm	15~20mm	25~30mm	30mm以上
草丈(cm)	~72cm	~75cm	~78cm	~80cm	~83cm	~
穂肥の施用時期				←→		

例) 幼穂長15~20mmの時（出穂前18日頃）が穂肥施用時期であるため、穂肥診断した時の幼穂長が1mmの場合、その5日後に穂肥を施用する。

【穂肥診断の方法】

- ① 幼穂形成始期頃の草丈を測る。
 - ② 葉色（群落・SPAD値）を測る。
 - ③ 上記①②の測定値を診断指標に当てはめ、施用量を確認する。
 - ④ 施用量が確認できたら、記載された施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。
- ※穂肥施用できるのは、葉色が「笹の葉色以下（3.5以下）」になってからである。

表2 穂肥診断基準

	葉色	葉色板		SPAD (値)	幼穂長 (mm)	草丈 (cm)	施用量 〈ゴールド有機50〉
		群落	単葉				
穂肥 施用時	淡い	3.0以下	3.5以下	34.0以下	2	75まで	15Kg/10a
		3.0~3.3	3.5~3.8	34.0~36.0	5	78まで	
	標準	3.3~3.7	3.8~4.2	36.0~39.5	15	80まで	10Kg/10a
	濃い	3.7以上	4.2以上	39.5以上	—	80以上	施用しない!

例) 穂肥施用時期の葉色（SPAD）が36.0~39.5、草丈が80cm以下であれば、ゴールド有機50を10kg/10a施用する。

(2) 病虫害防除

- ・「七タコシヒカリ」は県特別栽培農産物に応じた栽培を取組んでおり、農薬成分回数9成分を越えないような栽培管理が重要である。そのためにも、まずは病虫害が発生しにくい環境づくりのための耕種的防除（置き苗除去、過剰分けつ抑制のための適切な水管理、畦畔除草管理等）を行う。
- ・今後、長梅雨が続くことで「いもち病」や「ウンカ類」の多発生が6月末以降予想されるので発生状況を把握した防除が重要となる。

①葉いもち病

- ・補植用の『置き苗』は、葉いもち病の発生源になるため、すぐに除去する。

②ウンカ類

- ・本年は、平年に比べ20日早い梅雨入りとなり、梅雨前線に伴い海外飛来性害虫であるウンカ類が確認されている。ただし、5月11日から情報田等の払落し調査等ではウンカ類は確認されていない。現在、防除等は必要ないが、今後の発生状況に留意する。

《参考》海外飛来性害虫（トビイロウンカ・セジロウンカ）誘殺状況 県農業技術防除センター防除部HPより

	トビイロウンカ					セジロウンカ				
	佐賀県			長崎県		佐賀県			長崎県	
	佐賀市	佐賀市	嬉野	諫早		佐賀市	佐賀市	嬉野	諫早	
	ネット	ライト	ライト	ライト	ネット	ネット	ライト	ライト	ライト	ネット
5/11	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
5/12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5/13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5/14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5/15	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
5/16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5/17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5/18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5/19	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
5/20	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
5/21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5/22	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
5/23	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
5/24			0	0	0			0	0	0
5/25				0	0				0	0
5/26				0	0				0	0
5/27				0	0				0	1
5/28										
5/29										
5/30										
5/31										

③斑点米カメムシ

- ・斑点米カメムシによる被害を軽減するために畦畔雑草の除草を水稻の出穂15日前（6月20日）までに終わらせる。

4. 普通期水稻の育苗管理

- 「さがびより」は、苗が伸長しやすいのでラブリートの除去を早めに行い健苗育苗を行う。

地際からの高さが5 cm程度、第1葉鞘高が3 cmになると被覆資材（寒冷しゃ）をすべて除去する。

- 麦わらすき込みなど有機物施用を行った圃場では、ガスのわきが予想されるので、初期生育を促進するため、移植前日に窒素成分で0.5 g～1 g/箱の弁当肥を施用する。

